

協会ニュース

2018.2 vol.60

編集・発行 三重県医療ソーシャルワーカー協会
ホームページ <http://www.mie-msw.com/>
事務局 小山田記念温泉病院
〒512-1111 四日市市山田町5538-1
☎059(328)1260

目次

- ◇研修報告
- ◇新人紹介
- ◇病院紹介
- ◇協会トピックス
- ◇次回研修案内
- ◇編集後記

三重県医療ソーシャルワーカー協会研修会《研修報告》

1. 保健医療機関の機能と退院支援の実際

日時・場所:平成29年7月1日(土) 三重県総合文化センター 大会議室

参加者:46名

講師:急性期病棟…鈴鹿中央総合病院 藪下茂樹氏
療養型病棟…三重北医療センター 菰野厚生病院 石橋千依氏
回復期リハビリテーション病棟…七栗記念病院 下村康氏氏
地域包括ケア病棟…四日市羽津医療センター 小川修氏
緩和ケア病棟…伊勢赤十字病院 鈴木貴子氏
サービス付き高齢者向け住宅…D'sネットワーク 松本大氏

- 目的:①各機能別業務の実際を理解する
②自分の所属機関の役割を再確認する
③明日からの業務に活かせる退院(退所)支援の視点を得る

参加者の声:

- 退院調整を終えたので自己の援助は完了と思うのではなく、今後の療養先の機能を知ることによって提案できるとよく、
具体化・深い調整に繋がると思うので、今後自己の勤務先の機能以外の病院・施設をもう一度見直したいと思いました。
- 私はMSWを目指す学生です。今回初めて参加し丁度病院実習を終え、目前に就職試験が迫る私にとって病院の機能
分化、役割、MSWの使命など学ぶことができとても勉強になりましたし、実習での学びを深められたように感じました。
- それぞれの機能・役割を正しく把握していることで患者・家族の選択肢が広がり治療・生活の幅が豊かになると思います。



2. 初任者養成研修①

日時・場所:平成29年7月2日(日) 三重県総合文化センター 中会議室

参加者:25名

講師:三重県MSW協会の概要と現任教育体制…研修部担当
「医療ソーシャルワークの価値と倫理」…主体会病院 伊藤隆博氏
「日本における医療ソーシャルワークの成立と課題」…市立四日市病院 吉川晴子氏
「診療報酬とソーシャルワーク」…小山田記念温泉病院 川口恵生氏
「社会保障制度とソーシャルワーク」…三重聖十字病院 天野絵里加氏

- 目的:①MSWとしての実践のすべての基礎となる価値・倫理・業務指針について理解する
②MSWとして必要な院内外の多職種との連携について理解する
③病院機能とMSWの役割について理解する
④MSWとして求められる面接技術を習得する

参加者の声:

- 社会保障制度や診療報酬のこと等、分からない部分について少し理解することが出来たとともに、MSWとしてより
理解を深めなければと感じ、意識を上げることにつながった。
- どのように日々業務を行うべきか理解できるようになってきてから、自分のしていることが本当にこれでよいのか
疑問に感じていた中で、本日の研修はとても勉強になりました。普段の業務の中では勉強しづらい診療報酬や
社会保障制度にもふれていて、とても参考になりました。
- 日々業務をこなすことで精一杯の中、価値・倫理について改めて考えるきっかけとなり、自分を振り返ることができた
ので良かった。仕事を覚えることも大切ですが、「患者さんのために…」と考えて関わるのが大切だと思いました。



3. 初任者養成研修②

日時・場所:平成29年8月23日(水) アスト津 研修室A

参加者:28名

講師:「医療ソーシャルワークと記録」…三重大学医学部附属病院 鈴木志保子氏

目的:①記録を書く意味を明らかにし、書くときの注意点を考えることが出来る

②記録の種類を理解する

③記載した記録を安全に保管し業務に活用する

④それぞれの働く場に合った実践記録のあり方を考える

参加者の声:

○共有される情報であるため、誰が見てもわかりやすい記録を意識していきたいと思いました。

○記録を作成する意義を再確認でき、作成の際のポイント等を学べた。

○とても役立つ研修でした。1年目で文章力がまだまだなく、まとめることも大変で記録にも時間を要するため、今回の研修を通じて少し成長できたと感じます。



4. 実践を言語化する意義と方法

日時・場所:平成29年9月10日(日) 三重県総合文化センター セミナー室C

参加者:25名

講師:「MSWが知っておくべきプレゼンテーションの方法」…主体会病院 伊藤隆博氏

「現場での実践を実践報告・事例報告につなげる視点と方法」…刈谷豊田総合病院 樋渡貴晴氏

目的:①実践報告や事例報告が、特別なことではなく誰でも取り組み、

業務にも自身のスキルアップにも活かせると認識できる

②日々の業務のなかから問題意識を持ち、実践報告・事例報告につなげることができる

③実践報告・事例報告の方法を身に付ける

参加者の声:

○実践報告を行うにあたり、自身がどのように取り組んでいけばよいか、より明確になりました。

○今後実践報告をしていく上でのポイントがわかり、ためになりました。

○実践報告について相談できる場が、MSW協会から提供してもらえると良い。



5. アセスメントスキルを学ぶ

日時・場所:平成29年10月15日(日) アスト津 研修室A

参加者:24名

講師:日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 田中和彦氏

目的:①ソーシャルワーク実践を行う上で、クライアントとのニーズに沿ったアセスメントの手法を理解できる

②日々の実践の中で、ソーシャルワーク・アセスメントを言葉で他の職種にも伝えることができる

参加者の声:

○アセスメントにはさまざまな仮説を立てることが大切だが、仮説にとらわれすぎないことも大切。

○ふだんゆっくりとアセスメントをとることが出来ていないということを改めて感じました。

○患者・家族との関わりだけでなく、新人の指導のための自分自身への行動・技術の見直しに活かしたい。



6. 初任者養成研修③

日時・場所:平成29年11月12日(日) じばさん三重 研修室5

参加者:21名

講師:「支援方法論～面接技術」…鈴鹿医療科学大学 教授 安井豊子氏

目的:①専門的援助関係の形成を可能とする態度、コミュニケーションスキルを獲得する

②面接技法について自分自身が何をどの様に学ぶべきか具体的に知る

③面接を行うためには、ソーシャルワークの知識・技術・価値が統合される必要があることを知る

参加者の声:

○裏側にひそむ感情や価値観に焦点をあてていくように面接をしていきたいと思いました。

○患者、家族の真のメッセージを受け止められてなかったなと振り返る機会にもなりました。明日からもっと意識して頑張ろうと思いました。

○患者さんをアセスメントする上でどこに重点を置くべきなのか、分かりやすく説明していただきました。面接の中で取り入れていきたいです。



7. スーパービジョン研修

日時・場所:平成29年11月26日(日) じばさん三重 研修室5

参加者:19名

講師:金城学院大学 人間科学部 コミュニティー福祉学科 教授 浅野正嗣氏

目的:①組織内にて質の高いソーシャルワーカーを育成するためのスーパービジョン体制の構築ができる

②スーパービジョンの実践方法を習得する

③スーパービジョンの効果的実践ができる

参加者の声:

○普段から“相談”として行っていることをきちんと構造化してSVとして行うことから始めたいと思った。

○人員等が増えて必要になった時にしっかりできるようにしたいと思いました。身近なMSWの方のスーパービジョンが見られて大変勉強になりました。

○業務に取り入れてみたい



今期も会員、非会員問わずたくさんの方々に参加していただきました！ MSWとして活動する上ですぐに使える内容ばかりですので、今後もお気軽に参加していただきたいと思います☆一緒にスキルアップを目指しましょう！！

新加入会員紹介

新加入された方の紹介です。
皆さまどうぞよろしく
お願いします。



独立行政法人 国立病院機構
三重中央医療センター
菱谷 隆宏
ひしに たかひろ

始めまして、今年度4月より大阪から三重中央医療センターへ入職しました菱谷隆宏と申します。早いもので医療福祉の仕事に携わり18年目?！になります。現在の関心は「救急医療」と「災害医療」です。皆さん宜しくお願いします。



独立行政法人 国立病院機構
三重中央医療センター
佐々木 由依
ささき ゆい

この四月から三重中央医療センターに入職しました佐々木由依と申します。卒後3年目ですがMSWとしての経験はほぼなく不慣れなため、関係各所の皆様には大変ご迷惑をおかけしているかと思ひます。今後思うところがありましたら是非ご指導頂きたたく存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。



市立四日市病院
加藤 かすみ
かとう かすみ

これまで児童福祉分野で勤めておりましたが、H29年1月より市立四日市病院に入職いたしました。新たな世界に飛び込み、分からないことばかりですが、患者さんやその家族にとってより良い選択ができるよう努めていきたいと思ひます。

病院紹介《医療法人社団義人会 高木病院》

第4回目は高木病院からの報告です。病院概要だけでなくそこで働くMSWの役割における熱い想いまで語って頂きました。また地元のおすすめグルメも紹介していただきました。

1. 成り立ち

当院は、開設前より自身の癌と闘いながら最期まで医師使命を全うした先代の高木啓が「医療の最終目的は疾病の治療のみならず、人の心の病を治療していくこと。弱者への無限の同情、これを医道と云ふ」を理念に掲げ、昭和36年7月に開設した病院で、前身として今から100年以上前の大正4年に啓の母である高木いせのが鈴鹿市北部に開設した高木医院から始まっています。

昭和46年に医療法人社団義人会を創設、現在に至るまで、先代の理念に基づき「ふれあいの心で地域医療に尽くす病院」「いつでも頼りになる病院」「信頼され愛される病院」の三文を医療理念としており、一次救急患者の受け入れや、訪問診療のほか、訪問リハビリテーション(みなし)も行っています。



医療法人社団義人会 高木病院

所在地：〒513-0014 三重県鈴鹿市高岡町 550
電話：059-382-1385

2. 病院の特色

79床の医療療養型病床から成り立っています。療養病床に特化していることもあり、地域の方だけではなく、市外県外などを含めた沢山の方が長期療養という現実と向き合っています。安心して療養生活を送ることが出来るよう、日々の看護や介護に加えて、四季の行事なども行われており、高校生ボランティアや家族と一緒に作るイベントとなっています。

3. 医療相談室の役割

どの医療機関でも共通して、入退院支援は勿論のこと、安心して治療を継続できる手段である制度活用の支援はMSWの重要な役割ではないでしょうか。場合によっては何か月、何年にもわたることとなる療養生活においては、患者やそれを支える家族の生活、就労、医療費や財産管理など、救命を受けるに留まらない人生があり、制度活用の有無は死活問題となります。

健康保険、限度額認定、障害者医療費助成、特定疾患医療費助成、傷病手当、障害年金、特別障害給付金、労働災害補償、自動車事故に係る保険保証、補装具の給付、修理、日常生活用具の給付、権利擁護、成年後見、生活保護、介護保険、賃貸住宅の入退去、住環境、就労支援、外出外泊支援、葬儀の手配や緊急通報システムの導入等々、

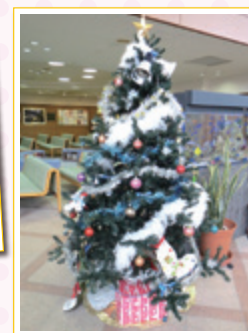
院内の様子



合同カンファレンスの様子



敬老のイベント



クリスマス



毎週の病棟カンファレンス



病室の様子

依頼を受けたから…ではなく、それぞれが置かれた状況に寄り添い、必要な時期に必要な支援を行えるかどうかはMSWのアセスメント力にかかっているのではないかと考えます。

他職種スタッフとの共有が必要なことについては、日常的にコミュニケーションを大切にすることと、合同カンファレンスを活用しています。MSWも他職種も自分の役割部分だけを知るのではなく、患者・家族とそれを取り巻く関係者がどのような役割を担っているのかを知ることで見えてくるものもあります。何年たってもアセスメントの基本に立ち返りながらクライアントの力強さを支える一筋の柱がMSWであることを実感しながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。

(文：MSW 磯村久美)

なかのせいべいてん
中野製餅店
住所：本店・三重県鈴鹿市西条4-22 ☎0596-53-1501
神戸店・鈴鹿市神戸町6-3 ☎059-382-0162
営業時間：9:00～19:00 / 定休日：月曜日、隔月火曜日

近隣の
おすすめグルメ
紹介

明治元年創業の老舗製餅店。
のしもちや青菜餅、赤飯などはもちろん、昔懐かしい甘口と辛口のみたらしやたがね餅は絶品！
夏になるとアイス饅頭が色鮮やかに並びます。
神戸店は鈴鹿市役所の隣にあるので、お仕事で来られた際にぜひお立ち寄りください♪



▶▶▶ 次回は三重県身体障害者総合福祉センターからの報告を予定しています。お楽しみに。

協会トピックス ～指定難病の医療費助成について～

平成29年12月31日で経過措置が終了しました。平成30年1月1日以降は、難病の医療費助成に関する下記3点について変更点があります。

I 認定要件

経過措置（H29.12.31まで）
『診断基準』を満たすこと



原則（H30.1.1以降）

『診断基準』および『重症度分類』を満たすこと

II 入院時の食事自己負担額

経過措置（H29.12.31まで）
1/2 自己負担



原則（H30.1.1以降）

全額自己負担

III 毎月の自己負担上限額

①重症患者認定の廃止 ②自己負担上限額の変更（一部） ③高額かつ長期の適用

※詳細は『厚生労働省』および『難病センター』のホームページをご参照ください。

今後の研修案内

2月23日（金）

初任者養成研修⑤

『事例検討の方法と実践の検証②』

3月25日（日）

『平成30年度診療報酬・介護報酬改定説明会』

5月19日（土）

平成30年度

三重県医療ソーシャルワーカー協会総会

詳細は協会から届くご案内を参照してください。
ふるってご参加ください。お待ちしております。

編集後記

“歴史を愉しむには、感受性と想像力が必要”
ある歴史作家の方の言葉です。ソーシャルワークも同じではないかと思いました。共通の専門知識もそれをどの様に生かすのかは個々それぞれ。感受性と想像力次第で支援の幅や奥行きが違ってくるのではないのでしょうか。それらを養うべく、今年1年も公私ともに心の肥やしとなるような体験にたくさん出会えますように。

担当：兵倉・天野・松田